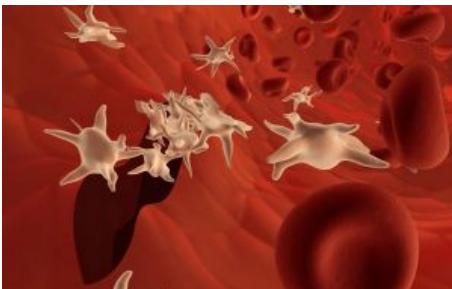


血液をサラサラにする薬について…2

前回に引き続き、薬の話をしましょう。

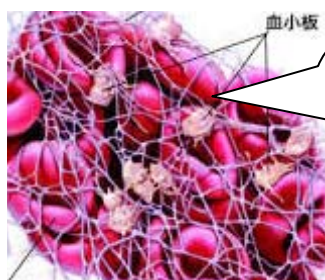
サラサラにする薬は大きく分けると2種類です。

1) 狭心症のステント留置後や足の動脈が詰まるような病気(閉塞性動脈硬化症)につかう薬は、抗血小板剤(アスピリン、パナルジン、プラビックス、プレタールなど)です。これらの薬は血小板という細胞に作用して血を固まりづらくします。体内での血小板の寿命は約10日程度ですので、薬をやめても効果は10日ぐらい持続します。手術などの予定がある場合に3-7日間中止するのはそのためです。しかし出血のリスクが少ない手術や検査(胃の一部をとる検査や白内障の手術・抜歯など)では薬を中止しないで行うことが多く、出血のリスクに応じて薬を止める日数は異なりますので、主治医に確認しましょう。またこのような薬を何種類か飲んでいる場合には1種類に減らすこともあるので注意してください。



血小板は傷をふさぎ出血を止めています

2) 心房細動による脳梗塞を予防する目的や、エコノミー症候群で足の静脈や肺動脈に血栓ができやすい方などが飲むのは抗凝固剤(ワーファリン・プラザキサ・エリキュース・リクシアナなど)です。ワーファリンは古くから使用され、ビタミン K を活性化する酵素を阻害することで凝固因子の働きを抑え血液を固まりにくくします。ビタミン K を多く含む納豆やクロレラを食べると効果が弱くなるため、納豆が食べられなくなるというのはよく聞きますね。この薬も効果が出るのに1週間近くかかり、血液検査をしながらその人にあった量を調節していきます。薬の量が増えたり減ったりするのはそのためです。最近24時間で効果が出て投与量も腎臓の機能や体重・年齢で決める簡単な薬が使用できるようになりました。この薬はビタミン K 阻害薬ではありませんので、納豆も食べることができ食事の制限がありません



凝固因子は血小板も赤血球もすべて絡めて固めてしまう網のようなもの